

(様式1)

自 己 評 価 表

愛媛県立吉田高等学校
学校番号(42)

グラデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力に関する方針）	カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）
学校の教育活動を通じて、以下の六つの資質・能力を育みます。 思考力・・・知識や経験に基づいて考える能力 創造力・・・新しいものを作り出す能力 主体性・・・自分の意志・判断で行動しようとする態度 社会性・・・人間関係や社会生活などをうまくやっていく能力 規範意識・・・社会のルールを守ろうとする意識 人権意識・・・様々な人権問題の解決に主体的に取り組もうとする意識	真理と正義を愛し、勤労を尊び、責任を重んじ、人間として調和のとれた心身共にたくましい生徒を育成するため、次のような観点で教育課程を編成・実施します。 ○ 生徒の基礎的・基本的な知識・技能の定着に努めます。 ○ 主体的・対話的で深い学びを実践し、思考力・判断力・表現力等の育成を図ります。 ○ ICT教育を通じて、情報活用能力や情報モラル等を育成します。 ○ 家庭や地域・関係機関等と連携・協力してきめ細かな指導・支援を行います。 ○ 課題発見・解決学習を通じた人づくりを行います。 ○ 生徒の進路実現を目指して、高校3年間を見通したキャリア教育を行います。

<マニフェストに関すること>

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
グラデュエーション・ポリシー	グラデュエーション・ポリシーの達成	グラデュエーション・ポリシーに沿って生徒が成長していると感じる教職員の割合7割以上 A：十分に成長している B：成長している C：どちらとも言えない D：あまり成長していない E：成長していない	B	「グラデュエーション・ポリシーに沿って生徒が成長していると思いますか。」という教職員対象のアンケートに対して、65%が「十分に成長している」「成長している」という肯定的な評価をしているが、28%が「どちらとも言えない」、6%が「あまり成長していない」「成長していない」という否定的な評価をしている。	・各学科の特徴を生かした進路指導や、資格・検定試験の指導により、生徒が満足できる進路指導を実践していく。また、生徒指導や人権教育の観点から、規範意識や社会性、人権意識の高揚を目指す。
学習指導	よく分かり意欲を高める学習指導の充実	生徒の授業満足度平均3.6以上（1から4の4段階評定）を達成する。 A：3.6以上 B：3.3以上 C：3.0以上 D：2.5以上 E：2.5未満	A	生徒の授業満足度は、授業評価アンケートによる生徒の授業満足度は、教師の行う授業に対して平均3.8、生徒の自己評価に対して平均3.7という結果となった。目標の平均3.6を上回る結果となった。	・昨年度に引き続き、高い授業評価であった。来年度も、ICT機器の活用や個別指導の充実等に取り組み、少しでも生徒の理解度を深め、主体的に学習に取り組む生徒の育成を目指す。
	学習習慣を定着させる課題指導の充実	平常時学習時間平均60分以上、考査時学習時間平均120分以上を目指しながら、主体的に学ぶ力を付ける。 A：60分以上（考査時120分） B：50分以上（考査時100分） C：40分以上（考査時80分） D：30分以上（考査時60分） E：30分未満（考査時60分）	C	平常時学習時間は、普通科43.8分、機械建築工学科23.5分、電気電子科40.5分、平均35.9分であり、考査時学習時間が普通科159.7分、機械建築工学科98.0分、電気電子科113.5分、平均123.7分であった。	・考査時の学習時間は目標を達成しているが、平常時の学習時間が少なく、学習習慣の定着が課題である。普段の週末課題や小テスト、各種資格取得等に主体的に取り組むように意識を変えていく必要がある。
	読書習慣を身に付けさせるとともに地域の先人に学ばせる指導の充実	図書の年間貸出冊数一人当たり2冊以上、朝読書年間45日以上の実施を達成する。 A：45日以上 B：40日以上 C：35日以上 D：30日以上 E：30日未満	C	図書の年間貸出冊数一人当たり1.2冊（R8.1.20現在）。朝の読書の日数は予定通り確保できた。昨年度から2年間の図書館教育研究委嘱を受け、図書に関する様々な活動を取り入れ実践することができた。	・図書館教育研究で取り入れてきた活動を継続し、生徒たちに「読む」「話す」「作る」と多角的に働き掛けながら、読書活動の啓発につなげていく。
生徒指導	規則正しい学校生活を送らせる指導と健康教育の充実	①年間出席率平均98%以上②一か年皆勤率55%以上③年間欠席日数5日以上の者5%以内を達成する。 A：①②③達成 B：①②達成 C：①③ D：②③達成 E：①②③未達成	D	①出席率98%②皆勤率25%③年間欠席5日以上28% 一か年皆勤者数（1年生17名2年生19名3年生28名全体64名23.5%）学年が下がるごとに低い結果になる（昨年も同じ傾向）。	・基本的な生活習慣が身に付くよう指導していく。欠席数は進路実現に大きく左右される要素になることを保護者を含めて伝えていく。自分自身の健康を維持、管理していく方法を考えさせる機会を持ちたい。
	挨拶・身だしなみ・交通等規範に関する指導の充実	①身だしなみにおいて重大指導案件数0件②校内携帯電話無断使用数3%以下③登下校時の交通事故0件を達成する。 A：①②③達成 B：①③達成 C：②③達成 D：1つ達成 E：①②③未達成	B	①身だしなみ重大指導事案0件②校内携帯電話無断使用数4.4%③交通事故0件	・校則やルールの遵守、モラル・マナーの向上を目指す。自分自身の行動チェックをさせるなどして、意識を高めさせたい。 ・委員会活動を中心に、生徒間で考える場を設定し、生徒の意識向上に努めていきたい。特に交通安全については来年度宇和島地区の拠点校になるので、模範となるような取組をしていきたい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
生徒指導	部活動・学校行事の充実	①部活動加入率95%以上②県大会上位入賞、体育・文化部含め2部以上③生徒の学校行事に意欲的に参加している平均3.5以上（1から4の4段階評定）を達成する。 A：①②③達成 B：①②達成 C：①③達成 D：1つ達成 E：①②③未達成	B	①加入率は94.4%（257名/272名1年生100%2年生91.5%3年生91.6%）②【機械建築部・木工】県1・2位四国大会1位、全国大会出場【機械技術部・溶接】県団体2位、個人4・6位四国大会個人2位全国大会出場5位。【サッカー部】全日本フットサル選手権大会県大会1位（3年連続優勝）四国大会出場 ③平均3.6	・①部活動加入率を維持、増加させるために、部活動の魅力を発信していく。 ・②部活動成績は日頃の熱心な取組みが好成績に結びついた。学校全体で部活動の魅力化をホームページ等で発信していきたい。 ・③来年度も生徒たちにとって心に残る行事を生徒と共に作っていききたい。
	生徒一人一人の適性に応じた進路指導の充実	就職決定率100%、就職試験一次内定率100%、応募前職場見学会参加率100%、進学決定率100%、第1希望進路先決定率100%を達成する。 【決定率・参加率】 A：100%以上 B：95%以上 C：90%以上 D：80%以上 E：80%未満	B	学校幹旋就職決定率100%（就職先未決定者4名うち2名縁故希望）、応募前職場見学会参加率90%、就職試験一次合格率96%と目標を達成することはできなかった。就職一次試験不合格者2名は、当日の試験の様子などが選考に影響したと考えられる。 進学先決定率96%（進学先未決定者が2名）、大学入学共通テスト受験者14名。	・就職に関して、学びなおしや就職準備テストの実施（SPI）。求人数が増加しているからこそ、しっかりとした企業研究を行いミスマッチを防ぐ。 ・進学に関して、補習・模試の実施方法等について検討。大学や受験方法等の情報収集についてなど、大きく変革する必要がある。また生徒の希望する進学先への進学を一番に考え、しっかりとした進路指導の実現を目指す。
人権・同和教育	インターンシップによる職業観育成指導の充実	インターンシップの満足度平均3.5以上（1から4の4段階評定）を達成する。 A：3.5以上 B：3.0以上 C：2.5以上 D：2.0以上 E：1.5未満	B	事業所の協力により、生徒が希望する事業所で進路に合わせたインターンシップを実施することができた。満足度は3.4と高い評価であった。	・インターンシップ中にトラブルがあった事案も聞いている。実施企業の選定や実施方法等、検討してインターンシップの取組自体を見直す必要を強く感じた。
	いじめを許さない態度を育てる指導の充実	いじめ調査を各学期一回以上実施する。 いじめの未解決事例件数0件を達成する。	B	調査は予定通り各学期1回ずつ実施することができ、何かあれば担任が学年、関係の課と連携を取りながら早期に対応をおこなうことができた。しかし、些細な案件が毎回あったため、生徒への啓発が一層大切だと思われる。	・引き続き各学期1回は実施し、生徒の把握に努めるとともに、些細な案件や未解決事例も連携を取りながら解決に取り組んでいきたい。
	人権委員会活動の充実	「人権だより」を年間6回以上発行する。 人権委員会の発表を年間2回以上実施する。 A：6回以上 B：5回以上 C：4回以上 D：3回以上 E：2回以下	A	①「吉高人権だより」を毎月発行し、様々な人権問題を取り上げた。②宇和島地区生徒人権委員会夏季研修会にも参加し、他校の様子を知ることができ啓発を受けた。③集会では夏季研修会の活動報告を行い、人権啓発に努めることができた。	・「吉高人権だより」や集会での発表を、更に充実した内容にし、全校生徒へ還元できるように努めていきたい。来年度も研修会に参加し、他校の人権委員との交流を図っていききたい。
交流教育	地域・保護者に開かれた人権・同和教育の充実	人権・同和教育ホームルーム活動を年間2回以上公開する。	C	公開授業は2回実施することができた。特に2回目は2年生の修学旅行に伴う中間考査のため、1・3年次での実施であったため、参加者が3名と少なかった。	・引き続き、生徒・保護者等や外部関係各所に積極的に呼び掛けたい。
	地域でのボランティア活動参加を促す指導の充実	各種ボランティア活動への参加、一人平均2回以上を達成する。（校内ボランティアも含む） A：全員達成（100%） B：230人（80%）以上 C：200人（70%）以上 D：170人（60%）以上 E：140人（50%）未満 （全校生徒281人中）	D	2回以上参加できた生徒は165人（60.6%全校生徒272人中）2学期に実施予定だった生徒会主催ビュアマインドが雨天中止になったため、3年生の達成率が低くなった。部活動単位でボランティアに参加した生徒もいる。	・ボランティアは主体的に実施していくものであるが、友達や教職員、大人と一緒に取組む雰囲気作りも大切だと感じる。社会貢献、人の役に立つ人材の育成ができるよう学校行事等を通して指導していきたい。外部から依頼のあったボランティアについては生徒への案内をスムーズに行っていきたい。
	地域の先人に学ばせ地域に貢献する心を育成する教育の充実	地域の福祉施設等での活動への参加者年間延べ200人以上を達成する。 A：200人以上 B：150人以上 C：100人以上 D：80人以上 E：80人未満	A	施設内での活動はできなかったが、地域の福祉施設に暑中見舞いと年賀状を送ったり、クリスマスリースや季節のお花をプレゼントしたりする形で交流活動を行った。交流を考えていた時期に感染症が流行しており、直接利用者さんに手渡しできなかった施設があった。	・地域の福祉施設には大変喜んでいただいているため、交流の時期や交流活動の内容、交流の方法を含め、今後の充実した活動となるよう、検討したい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
環境整備	公共物を大切にし、環境保護に努める意識を育てる指導の充実	美化委員会による学期1回の校内点検を実施する。美化委員会の発表を年間1回以上行う。	C	美化委員による校内清掃点検は学期に1回実施した。（3学期は2月に実施予定）5月の委員会発表では、ゴミの分別、清掃点検の内容報告を行い、環境整備を呼び掛けた。また、今年からクリーン愛媛運動の実施を猛暑の7月から5月に変更したことで、より活動しやすくなり、地域の美化活動に努めることができた。	・各教室等から出るゴミの分別、清掃活動への取り組み掛かりが課題である。全校集会等での環境整備への啓発を継続し、更に校内美化に努める。
	施設設備の安全点検と事後処理	施設設備の安全点検と事後処理を、全教職員の協力のもと適切に実施する。	C	安全点検は学期に1回実施し、修理箇所は速やかに対応することができた（3学期は1月中旬に実施予定）。	・施設の老朽化による異常箇所に対して、随時点検の実施や連携を行うことにより、安全点検を確実にし、素早い改善ができるよう努める。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

＜マニフェスト以外に関すること＞

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
教育相談・保健活動	教育支援的な相談体制の確立	生徒が気軽に相談できる体制を整えらるとともに、教育相談窓口の周知に努め、教職員間の情報共有や、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、外部の関係機関等との連携により、生徒の不安や悩みに対応していく。	A	スクールカウンセラーへの相談件数は13件、スクールソーシャルワーカーへの相談件数は5件と昨年度より増え、生徒の実態把握に役立った。また、カウンセラーとソーシャルワーカーが情報共有を行ったり、担任、学年、関係の課と連携して対応することができた。	・引き続き、生徒や保護者等へ積極的な利用を呼び掛け、生徒の諸問題の解決に努めていきたい。
	健康教育・保健活動の充実	健康に関する講座の実践や「保健だより」の発行により、生徒の健康意識の高揚を図るとともに、生徒が主体的に行動に繋がれるよう、生徒保健委員の活動を充実させる。	B	心と体のサポート講座を外部機関から講師を招き開催できた。また、保健だよりを毎月発行し、ホームルームでその時期に合った内容の啓発を行うことができた。	・引き続き生徒の健康意識を高められる機会の提供や啓発により、生徒が行動に繋がれるよう、生徒保健委員の活動を充実させ、教職員間でも連携を図って生徒に呼び掛けていく。
工業教育	ものづくりを通じた人づくりの展開	地域産業との連携を図り、見学や体験学習を通して実践力と人間力を高める。 工場見学を年5回以上、匠の技教室等を年30回以上実施する。 ものづくりコンテスト四国大会、全国大会の出場を達成する。 A：30回以上（見学5回） B：25回以上（見学4回） C：20回以上（見学3回） D：15回以上（見学2回） E：10回未満（見学1回）	C	工場・現場見学は、9回（M科5、E科4）。匠の技教室は4業種（M科3、E科1）延べ14回実施した。出前授業（職人来校）は6回（M5、E1）実施した。それにより資格の取得や実践的な学習につながった。 高校生ものづくりコンテスト（木材加工部門）5位、若年者ものづくり競技大会全国大会（建築大工職種）銅賞、全国選抜高校生溶接技術大会5位に入選することができた。	・工場・現場見学や匠の技教室、出前授業等を多く実施することで、生徒が興味関心をもち、将来の地域産業スペシャリストとして活躍できるよう今後も指導を継続する。 ・ものづくりコンテスト及び各種競技大会において次年度も四国大会、全国大会への出場を目指して、指導を継続していく。
P T A 活動	協力体制のとれたP T A諸活動の実施	P T A諸活動（総会、交流会等）を保護者と協力して適切に行う。P T A理事会参加率70%以上を達成する。 A：70%以上 B：65%以上 C：60%以上 D：55%以上 E：55%未満	A	第1回理事会（5月実施）の出席率は、PTA役員・理事の方々が76%、教職員が84%だったため、評価をAとしたが、役員と理事の出席率は昨年度の88%から下がった。学校行事への参加等についても、徐々に活動簡素化の動きがあるのが現実である。	・役員・理事の方々から要望の出ている、保護者等への連絡の徹底について、Classi等を積極的に活用し、意思の疎通を図りながら、学校行事においてさらにスムーズに協力できる体制をつくりたい。
事務	経費の節約と円滑な事務処理の徹底	生徒・職員からの要望の早期実現に努めることで、より効果的な予算執行を行う。	B	物品については、ディスプレイ（音楽室用）等を購入した。修繕が必要となった箇所についても、第2教棟1階女子トイレ改修等、早期に対応することができた。	・物品購入及び修繕希望調査等により要望を聞き、早期実現に努めることで、より効果的な予算執行を行う。
		職員間で連携し、適正かつ円滑な事務処理を行う。	C	概ね適正に事務処理を行うことができた。	・職員間で日々連携し、事務処理情報について確認及びダブルチェック等を行うことで、より適正な事務処理を行う。
業務改善	適切な勤務時間	教職員の勤務時間の適正化を図り、休憩時間を確保する。業務の効率化を図り、時間の有効活用を図る。	B	教職員の業務効率化に対する意識を向上させ、「テレワーク」の積極的活用を実施した。勤務時間外在校等時間が長い職員に対し面談を行った。	・業務効率化とともに、教職員のウェルビーイング向上のための「テレワーク」の活用を含め、勤務時間の適正化の提案を進める。
	職場環境の整備	健康講座や健康相談を定期的に実施し、教職員の疲労や心理的負担の軽減を図る。	B	定期的に健康相談を実施し、疲労の軽減や改善につながった。また、産業医による職場巡視や衛生委員会により職場環境の改善が見られた。	・健康講座や健康相談を継続する。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。